

より密接な地域医療連携をめざして

連携便り

Vol.6

・C・O・N・T・E・N・T・S・

■ 特 集

専門性を基盤に医療連携を推進

顎口腔領域における 二次的医療機関としての役割

■ 新入職紹介

Masaki Karamoto



医療法人 鹿児島愛心会

大隅鹿屋病院

専門性を基盤に医療連携を推進

顎口腔領域における二次的医療機関としての役割

全ての病院（医院）がそこを受診する全ての患者さまの全ての治療を提供できる訳ではないことは皆さん周知であろうと思います。それぞれの病院には得手不得手な分野があり、医師個人にも得意な分野とそうでない分野があります。都会の方になると全ての診療科を網羅する総合病院はたくさんありますが、地方に行くとそのような病院が一つとして存在しないというものはこの大隅半島を見て

も例外ではありません。歯科領域に於いても実はその内容は多岐に渡っており、大学歯学部付属病院を受診すると、診療科として予防歯科・保存科（う歯の修復や歯髄治療）・補綴科（義歯やブリッジなど）・矯正科（歯並び）・口腔外科

等いくつもの科に細分化されています。私共はその口腔外科という主に口腔領域の手術を担当する分野で研鑽を積み、九州大学病院顎顔面口腔外科より出向という形で1999年（平成11年）に当院の歯科口腔外科は開設しました。

薩摩半島の方には鹿児島大学病院・鹿児島市立病院・今給黎総合病院・南風病院など顎顔面および口腔外科領域を扱う診療科（歯科口腔外科）を有する病院が数箇所あります。しかし神奈川県とほぼ同面積である大隅半島には当院が唯一の存在であり、この地域の二次的医療機関としての期待・要望に応えるべく日々毎日の診療に取り組んでいます。

当科の診療機能としてまず3つ

の大きな柱を考えています。①他院からの紹介患者さまの治療、②顔面・口腔領域の外傷（事故など）における緊急対応、③入院患者さまの歯科治療です。それぞれにつきもう少し具体的にお話したいと思います。

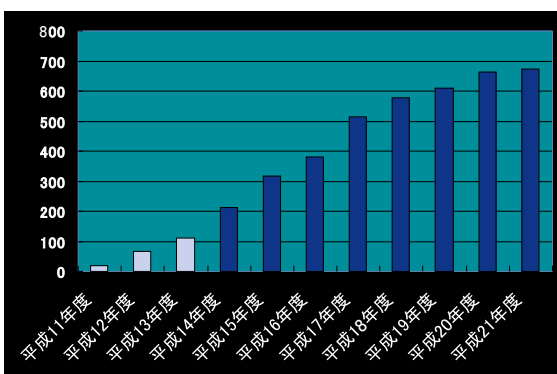
①他院からの紹介患者さまの治療

現在大隅半島には110軒ほどの開業歯科医院があります（鹿屋市48軒）。歯や顎の骨に起因する疾患でその歯科医院での治療が困難な場合に二次的医療機関として当科へご紹介頂いています。開設して12年が経ち、今ではそのうち100軒以上の歯科医院の先生方からご紹介頂けるようになりました。現在、新患の患者さまの約50%が他院からの紹介患者さまで



大隅鹿屋病院 歯科口腔外科部長
副院長 金本 政樹

あり、この12年間毎年増加している状態です（平成21年度他院からの紹介による新患患者数674人／年）。紹介患者さまの内訳としては地域の歯科医院からの紹介患者さまが約7割を占めますが、外科や整形外科・耳鼻咽喉科などの医



当科開設後の他院からの紹介患者数の推移



② 顔面・口腔領域の外傷
 (事故など) における緊急対応

当院は救急指定病院です。その為、顎顔面領域においてその初期治療が必要と判断された場合には当院ERもしくは時間外外来にて全身精査後すぐに対応できるように取り組んでいます。受傷原因としては交通事故やケンカによるものがほとんどですが、大隅の特徴として大動物(牛・豚など)による畜産業の患者さまの中間面骨折を4例ほど経験しております。顔面骨折の手術(観血的整復固定術)には固定器具として従来よりチタン製のミニプレートやマイクロプレートが使用されてきましたが、近年そのほとんどが吸収性の素材(PLLA:ポリL-乳酸)で作られたプレート・スクリューシステムに替わってきています。PLLAは約半年〜1年で加水分解により消失し、為害作用もほとんどなくプレート除去の二次手術が不要になります。当科でも8年前より導入し、他施設とほぼかわら

科の開業されている先生方からの紹介患者さまも多く見受けられます。地域別には鹿屋市内・肝属・曾於を始め遠方では都城市や串間市からも患者さまを紹介頂き、この地域における期待とその責任の重さを感じています。今年3月には単月としては当科開設後最多となる86人の患者さま(院内紹介を除く)のご紹介を頂き、治療にあたらせて頂くことが出来ました。

(内訳: 歯科医院71件、耳鼻咽喉科4件、内科3件、整形外科2件、鹿児島大学2件、外科1件、脳神経外科1件、精神科1件、小児科1件) 今後ご紹介頂きました患者さまの経過や治療後などの情報を細かに案内できるように心がけていきたいと思えます。

ない臨床実績を収めています。顎顔面領域の損傷はその構成される臓器の複雑性から脳神経外科・耳鼻咽喉科・眼科等の先生による専門的な診察・治療が必要となることも多く、可及的に早く近隣の先生方へコンサルトしている状態です(常勤医がいない為)。交通外傷など頭蓋内損傷にて脳神経外科での治療が優先される場合は入院先への病院へ往診を行い、病状安定後に当科へ転院の上、手術を行っております。連携する先生方にはいつも丁寧なご助言等頂き大変感謝しております。また休日や夜間の歯痛等に関するお問い合わせについては歯科医師会の当番医の方を受診して頂くようお願いしております。

昨年診療実績(2009・4・1〜2010・3・31当科入院患者) 顔面骨折19例(下顎骨骨折11例、上顎骨骨折3例、頬骨骨折1例、眼窩底骨折1例、その他鼻骨・歯槽骨など)

③ 入院患者さまの歯科治療
 当院の特性として抗血小板薬や抗凝固薬を服薬されている外来患者さまが多くみられます。その為、そのようなお薬を内服されている患者さまの抜歯を行う頻度が開業歯科医の先生に比べて非常に多いことが特徴だと思えます。日本循環器学会や日本歯科麻酔学会が提唱するガイドラインに沿い、基本的に抗血小板薬や抗凝固薬は休薬することなく抜歯をしています。(同薬内服下での抜歯後出血はまず起きません。) 内科・循環器内科など当院入院中の患者さまの一般歯科治療は継続して行いますが、退院後はかかりつけの歯科医院の方で診療情報提供持参の上、引き継ぐようにしております。

抗凝固薬を服薬されている外来患者



当科で治療を行った患者さまの一部を供覧します。

〈症例1〉患者66歳女性。

診断：睡眠時無呼吸症候群 鹿児島厚生連病院（呼吸器内科）から紹介。中途覚醒・夜間頻尿・熟睡感の欠如を伴う重症の閉塞性睡眠時無呼吸症候群と診断されスリープスプリントの作製依頼。

治療前の睡眠ポリグラフ検査結果

無呼吸数：121回
低呼吸数：138回
無呼吸低呼吸指数（AHI）
..37.2回/時

睡眠時最低酸素飽和度59%、
最大無呼吸時間93秒

上下顎一体型のスリープスプリントを約5ヶ月装着後の再評価

無呼吸数：121→28回
低呼吸数：138→59回

AHI：37.2→13回/時

と無呼吸・低呼吸残存あるも顕著な改善を認めたとの報告を紹介元より連絡を頂きました。



スリープスプリント装着時の口腔写真

〈症例2〉患者19歳男性。

主訴：右側顎下部の無痛性腫脹
志布志市の歯科医院より紹介受診。各種検査後に顎下部海綿状血管腫の診断を得、全身麻酔下に腫瘍切除術施行。術後一過性の生じた顔面神経下顎枝領域の不完全麻痺も改善、再発なく経過良好です。



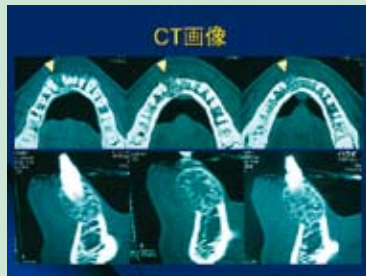
症例2の初診時顔貌およびMRI



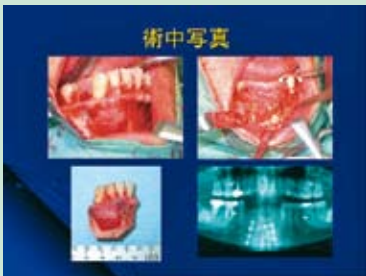
症例2の術中ならびに摘出物写真
(病理組織学的診断：海綿状血管腫)

〈症例3〉患者47歳男性。

主訴：下顎前歯部骨体部の膨隆
鹿屋市内の歯科医院より紹介受診。生検後にエナメル上皮腫（歯原性腫瘍・線維形成型）の診断を得、全身麻酔下に腫瘍切除（下顎骨部分切除）術および腸骨即時再建術施行。術後オトガイ神経領域の知覚異常および腸骨採取に伴う歩行障害も認めず、移植した腸骨の生着も良好です。



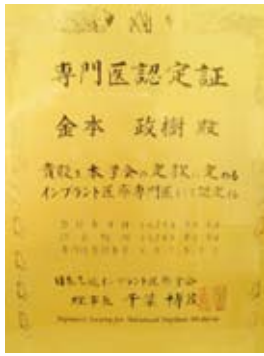
症例3のCT画像



術中写真および切除物、腸骨即時再建後のパノラマX線写真



最近の外來患者さまの兆候として他施設同様に顎関節症の患者さまが増加しているようです。顎運動時の疼痛や関節雑音に始まり、場合によっては開口障害（closed lockなど）を来たす疾患です。また高齢化が進む中で脳梗塞や老人性痴呆を有した患者さまの習慣性顎関節脱臼に遭遇することが珍しくありません。施設入所されている患者さまの場合に脱臼したままの期間が長く整復が困難な場合もあります。患者さま本人とコミュニケーションがとれず、ご家族に治療方針の同意を得ることが多い



H21.9月
日本先進インプラント
医療学会専門医取得

のですが、高齢で全身麻酔下手術を行う場合に合併症やそのリスク等、毎回非常に悩んでしまいます。最近ではインターネットの普及により事前に患者さまが疾病に対するある程度の情報を修得して受診されることも多いようです。われわれ医療人としてもさらに多くの知識や情報に耳を傾け続ける姿勢が不可欠となっております。この地域の先生方には専門分野にとらわれずに今まで以上に指導頂ければと切に感じています。

また、本年度からの新たな取り組みとして大隅半島における障害者の歯科治療のシステム化を考えています。精神疾患や病气・事故などによりなかなか一般の歯科医院での対応が困難な患者さまの歯科治療および口腔ケアをいかに円

滑に行うかのシステムを構築しようとする試みです。薩摩半島では鹿児島大学および鹿児島市立病院にて対応されていますが、大隅半島在住の患者さまも同院に行かれていたのが現状と見えます。ご病気から本人だけではの通院治療は難しく必ず付き添いの家族や施設職員の同伴がかかせず、その肉体的・経済的負担も大きいものと思えます。医療側の問題として障害を有する患者さまの歯科治療の場合、健常者に比べ

- ① なかなか上手にコミュニケーションが取れない故、どうしても長い治療時間を必要とすること
- ② 予測不能な行動に対し、どうしてもマンパワーが必要となり人員不足となること
- ③ 時間・人手を含めた治療に対し不十分な診療報酬、などがありどうしても積極的に受け入れられない現状があります。

もちろん、当科だけではの発案で大隅半島の患者さますべてを受け入れることは現実不可能ですので、



鹿児島県の行政事業および歯科医師会との協力は必要不可欠となります。

地域医療から取り残された領域へ微力ながら参入することに対し、院長と事務長からも快諾を頂き、現在、鹿児島県保険福祉部の担当者との協議中で来年から徐々に実働できるよう準備段階にあることをご報告しておきます。

私自身の話になりますが、平成10年に1年間だけではありますが鹿児島大学病院の口腔顎顔面外科で研鑽を積む機会がありました。唇顎口蓋裂の一貫治療や口腔癌・顎変形症の手術・治療を主とする教室に在籍し、当時大隅半島から

受診される患者さまが非常に多いことを実感していました。全ての患者さまを、とはいきませんが以前のよう錦江湾を越え、鹿児島市内まで受診される患者さまが一人でも少なくなるような精神でこの8年間突き進んで参りましたが、まだまだ未熟ゆえ自分の力のなさを痛感することも多いのが現状です。井戸院長がいつも言われますが、歯科口腔外科の一診療科長としても大学病院始め都会の大病院に負けないレベルの医療をこの大隅の地で提供できるようこれまで以上に地域の先生方との連携を密にして診療に携わっていきたくと考えています。これからも宜しくお願い致します。

新入職紹介



歯科口腔外科 山城 崇裕

大隅の医療関係者の皆さまはじめまして。

歯科口腔外科に配属になりました。この場をお借りしまして着任の御挨拶申し上げます。

私は福岡県春日市出身で、大学、卒業研修や大学院も九州大学で、その後もここ鹿屋にくるまで福岡県飯塚市で勤務していましたので、福岡県外で生活するのは初めてです。春日市には福岡徳洲会病院の近くに住んでおりました。春日市は九州で人口密度第二位の都市ですが、田畑や山など自然はほとんどありません。交通の便もよく、買い物に不自由はないのですが、子育てにどうかは疑問があります。私は自然に囲まれた新しい土地での生活を楽しみにしています。いままでも勤めてきた病院では医



科の重症な患者さまを多数診せていただき、多くの事を学びました。悪性腫瘍の化学療法中の患者さまやステロイドで免疫力が低下している患者さま、全身状態が悪い患者さま、敗血症などで意識レベルが低下している患者さまは、口腔内の衛生状態が悪く、口内炎や出血による痂皮、粘膜の角化物や唾液が固まってできる附着物がみられます。口腔衛生不良は栄養障害や、誤嚥性肺炎のリスクが上がりますので、これらの患者さまたちをみて口腔内の衛生改善が重要であるといわれています。感染性心内膜炎の原因菌として口腔内常在菌であるグラム陽性球菌が検出さ

れることが多いようですが、口腔内に明らかな原因となる急性感染症がみつからないことも少なくないそうです。菌血症は菌磨き後や食事中にも起こると言われ、歯石が沈着しておこる慢性菌周炎も原因となりうるといわれております。全身状態が悪い患者さまに口腔内の衛生状態が大きく影響していることは数多く報告があります。医科の先生にこのことを理解していただき、連携をとって治療ができればよいかと思えます。

歯科口腔外科では口腔内の炎症、嚢胞、腫瘍、外傷、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経疾患、粘膜疾患、口腔乾燥など口腔内全般の疾患を取り扱っております。患者さまの口の中の訴えがございましたらお気軽にご紹介ください。

歯科は治療が痛いイメージがあり、歯医者には行きたくないという人が多いかと思えます。歯を切削する器具はかん高い音がします。この音も歯医者嫌いになる一要因ではないでしょうか。私は患者さまに歯医者に行きたくないという気持ちを少しでも減らし、歯科治療に対して前向きになって頂くことを目標にしております。

ここ、大隅鹿屋病院はいい先生

ばかりですので、医科の先生方と同等に話ができる歯科医師を目指しております。また、古い治療をしていると馬鹿にされないように常に新しい情報をとりいれて、最新の歯科治療ができるよう頑張りたいと考えております。まだまだ未熟な点がございますが、皆さまの御指導を頂けたら幸甚に存じます。よろしくお願い致します。



心臓血管外科 川崎 裕満

初めまして。平成22年4月より大隅鹿屋病院心臓血管外科に赴任いたしました川崎裕満と申します。

出身は佐賀県で小中高を佐賀で過ごし、大学も佐賀医科大学（現佐賀大学医学部）を平成13年度に卒業しました。卒業後は佐賀医科大学胸部外科に入局し、新古賀病院心臓血管外科（久留米市）や光晴会病院心臓血管外科（長崎市）等で勤務を行ってきました。



こちらに赴任するにあたって周囲の者から、「鹿屋は車で5分も走れば街燈がなくなる」「20年前にタイムスリップしたような街並み」と聞いて不安を感じておりましたが、実際に住んでみると、一通りなんでもあり生活には困りませんし、そもそもインフラの程度も佐賀とそう変りはありませんでした。また、周囲には公園や自然が多いことはうれしい限りで、休日のたびに2歳になる息子と遊びにでかけております。

趣味は将棋ですが、いままでは周囲に将棋を指す人（注 将棋は打つではなく指すといえます）がおらず寂しい思いをしておりましたが、大隅鹿屋病院には将棋指しが何人かいるようでうれしく思っております。もし将棋を趣味にされていらっしゃる方がおられましたら是非ご連絡をお待ちしております。

私の専門は成人心臓血管疾患で

すが、他の領域と同様、高齢の患者が増えてきており、80歳代の手術患者はさらに、90歳代の手術症例も多くなっています。また、血管内治療の進歩もあり、手術適応となる患者は複雑病変を有しており、かつ多くの合併症を抱えているという傾向にあります。

そのような状況のなかで、良質な手術成績を残すことはけっして簡単なことではありませんが、心臓血管外科のチームとしての質を少しでも高めることを目標としています。

先生方にご紹介いただいた患者さんは外来もしくは検査入院で手術適応の有無や術式の判断を行い、手術して退院した後はまたご紹介いただいた先生のところへ御加療頂くことを基本としておりますが、入院中の患者で移動が難しい状況の時は、往診という形で、手術適応があるかどうかの診察を行っております。また、カテーテルでの末梢血管損傷やPPCSの除去なども往診による対応を行っておりますのでご連絡下さい。

微力ながら地域医療に貢献できるように頑張っておりますので宜しくお願いいたします。

心臓血管外科 里学

はじめまして、4月より大隅鹿屋病院心臓血管外科で勤務しております里学です。私は佐賀県武雄市で高校まで生活し、佐賀医科大学へ進学しましたので、生粋の佐賀県人です。佐賀医科大学でサッカー部に入学したときに、当院の副院長である中山義博先生と出会いました。入学当時18歳であった私は、最上級生であった中山先生から医学、サッカーをはじめいろいろなことを教わりました。お酒がほとんど飲めなかった私を心配し、特別プログラムで段階的に飲酒力を強化していただいたことは、特に感謝しております。そのおかげで練習後のビールの旨み、飲み会での日本酒の美味しさなどを知りました。当時のサッカー部の先輩方の多くが佐賀医科大学胸部外科（心臓血管外科）へ入局されましたので、私もほぼ自動的に平成5年に同医局へ入局となりました。

佐賀医科大学と佐賀県立病院で研修を行い、これまでに佐賀医科大学、福岡和白病院、長崎光晴会病院で心臓血管外科医として研鑽を積んでまいりました。1999年3月から2002年5月まで、ア



メリカのオハイオ州にあるクリブランドクリニックへ研究留学しました。人工透析の祖であるW. J. Kolffが初代の所長であった人工臓器研究所に始まり、現在はBiomedical engineeringへと規模を拡張し改名された部署にResearch fellowとして勤務しました。主な研究内容は人工臓器関連で人工心臓、人工心臓弁、人工血管などを動物へ植え込み、機能や生体適合



性を調べることでした。研究棟の反対側にある手術棟では世界屈指の心臓血管外科が年間4000〜5000例の手術を行っておりました。また過去に冠動脈造影検査の祖であるMason Sonesや、冠動脈バイパス手術の創始者であるRené G. Favalloroらの著名人が在籍しておりました。心臓外科は10年連続全米ランキング一位であり、CEOであるDelos Cosgroveは世界の心臓外科の権威です（写真中央）。血栓除去時に使用するフォガティカテーテルの発明者Thomas Fogartyとも一緒に実験することができました（写真眼鏡着用）。カリフォルニアワインが安く飲めたので、この時期からワインも趣味の一つとなりました。2001年に起きた9・11テロをアメリカで経験しました。

今回は九州の西の端の長崎光晴会病院から、南の端の大隅鹿屋病

院へ異動となりました。一時期は鹿児島芋焼酎にはまっておりましたので、引越しの時に国分インターを降り、車窓から全量芋焼酎「蘭」の黄金酒造が見えたり、垂水で幻の焼酎の森伊蔵酒造がみえたりで感激しました。また病院の目の前に大海酒造があるのにも驚きました。これから焼酎を飲むときにはその産地のことも勉強し、鹿児島県を深く知っていきたいと思います。鹿屋の風景は出身地である武雄市に似ており、懐かしささえ感じます。またゴルフの環境が素晴らしいので楽しみにしております。

このままでは私とお酒という話で終わってしまいそうですので、最後に抱負を記します。

これまでにおよそ2000例の成人心大血管手術に携わってまいりました。また心大血管疾患には大動脈解離、大動脈瘤破裂、動脈閉塞など救急疾患も多く含まれておりその経験も積んでまいりました。これらを通じて、これから大隅半島の地域医療に貢献していきたいと思えます。何卒よろしくお願いたします。



医療法人 鹿児島愛心会
大隅鹿屋病院

〒893-0015 鹿児島県鹿屋市新川町6081番地1
TEL 0994-40-1111 FAX 0994-40-4579
<http://www.kanoya-aishinkai.com/>

- 「厚生労働省臨床研修指定病院」
- 開 設：昭和63年8月
 - 病 床 数：一般313床
 - 診療科目
内科・呼吸器内科・呼吸器外科・消化器内科・消化器外科・循環器内科・心臓血管外科・外科・整形外科・脳神経外科・放射線科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・リウマチ科・肛門外科・麻酔科・救急科・歯科口腔外科

